



in ウガンダ
道を直す【土のう活用法】

雨が降ってはぬかるみ、通行不能になってしまう道。農作物を作っても市場まで運べず、仲買人も買い付けに来ない…。そこで酒井樹里隊員（村落開発）が取り入れたのが、土のうを使った道の補修工事。ぬかるんだ部分の土を取って土のうを敷きつめ、押し固めて、表面を土で覆えば完了だ。コミュニティの道をみんなで協力して守っている。村で身近に手に入る土のうを使うことで、住民たちの意識も変わってきた。



in パレスチナ難民キャンプ（ヨルダン）
実践的な授業ができる【美術教材集】

パレスチナ難民キャンプでは、子どもたちの自己表現力をはぐくむため、JICAボランティアが美術や体育など情操教育を指導。現地の教員がより実践的な授業をできるように、シニア海外ボランティアの森本美鶴さんと5人の美術隊員が教員向けの教材集「Art for ALL」を作成。必要な材料、教える手順、完成作品が項目ごとに写真入りで解説され、それを使った授業方法が広まっている。



特集 JICAボランティア
世界に羽ばたけ! 草の根の外交官

JICAボランティアのアイデア

モノが少ない開発途上国での活
JICAボランティアが生み出した
現地の人々の生活に役立つアイ

ランティアの箱

動には“アイデア”が不可欠。
デアを一挙に紹介!



in タンザニア
リサイクル布を使った【布草履】

タンザニア人のおしゃれは、キテンゲやカンガと呼ばれる布を使った洋服。仕立てた時に大量の布が余ってしまうが、これをリサイクルすればごみも減らせるはず。橋本史江隊員（環境教育）は、その端切れで布草履を作ることに。住民からは「ごみからモノができるなんて!」と驚きの声。エコバッグやポーチなども作るようになり、リサイクルの意識が根付き始めた。



in タイ
簡単・安いにおわない【ヤシ殻コンポスト】

増え続けるごみに対応できず、埋め立て地の不足が課題のタイ。飯塚紗彩隊員（青少年活動）は、家庭ごみの大半を占める生ごみに着目。発泡スチロールの箱にヤシ殻の粉末ともみ殻の炭を入れ、生ごみを分解するコンポストの普及に乗り出した。ポイントは、現地ですぐに手に入る材料で、誰でも簡単に作れること。1日で500グラムの生ごみが分解できると好評で、住民がごみ分別に積極的に取り組むようになった。



in ネパール
胎児の成長が一目で分かる【妊娠カレンダー】

「妊娠2カ月は赤ちゃんの成長に大切な時期。栄養のある食事を取ってくださいね」。大野典子隊員（保健師）が妊婦健診で使っているのが妊娠カレンダー。株式会社ベネッセコーポレーションの協力を得て、市役所の母子保健クリニックの同僚と改良を重ねて完成。最終月経日に合わせて円盤を回すと、出産予定日と現在の胎児の成長の様子がイラストで分かるようになっている。食事指導や衛生管理などのアドバイスがしやすいと評判だ。



in バヌアツ
野菜たっぷりのヘルシー【おやき】

子どもにも安心して食べさせられるものを作ってほしい。バヌアツの食べ物には塩分や化学調味料がいっぱい。そこで高橋詩野美隊員（看護師）が考案したのが、栄養バランスの取れた“おやき”。キャベツを炒めてショウガとコショウで味付けし、小麦粉の生地で包んで焼くだけ。おやきの作り方を学ぶための料理教室を開き、生活習慣病予防のための10カ条も伝えた。



in エクアドル
「水の循環」を動いて学べる【体操】

水の循環を楽しみながら学んでほしい。そのために田中鏡介隊員（環境教育）は、小学生を対象にした体操を思い付く。子どもたちがふんずけるのは“一滴の水”。海から蒸発して雲になり、雨として地面に降り注ぎ、地下水、川へと変化していく流れを体の動きで表現する。蒸発するシーンでは、しゃがんでから大きく背伸びをし、水が上昇していく動きにするなど工夫。楽しみながら環境について学びきっかけとなった。

in バングラデシュ
IT技術者のレベルを測る【資格試験の導入】

経済発展に向けてIT産業に力を入れるバングラデシュ。しかし情報処理の国家資格がなく、IT技術者の能力を測る“物差し”がない。そこで小原史丈隊員をはじめコンピューター技術隊員が情報処理技術者試験（ITEE）を取り入れようとして奔走。アジア各国でも採用されているこの資格があれば、IT技術者として国内外での就職のチャンスが広がる。大学やイベントで説明を行い、ITEEの意義をアピール。2014年の導入を目指してJICAが支援を続けている。

